

特活事始め ◆ 児童会活動について

「学級活動」について長くご紹介していました(No.15 参照)。本校の研究対象は概ね「学級活動」と「児童会活動」なので、児童会活動について少し紹介いたします。新指導要領では特に、年齢が異なる児童同士の人間関係を築き、楽しい生活をつくるなど自分たちの学校生活の向上を目指して、進んで話し合い、協力して実現しようとする自主的、実践的な態度の育成を重視しています。

本校では以前より「さわやか活動」をはじめとし、集会や掃除等にいたる様々な場面に縦割り班活動を行ってきましたので元より児童会活動は充実しています。1面掲載の「第8回エンジョイ集会」も大変充実していました。本校HP(1/24)を参照していただくと幸いです。昨年度から、さらに充実させようと「代表委員会」の時間設定などを工夫しながら、全校的に考え実践するプロセスも大切にできています。

このように児童会としての様々な活動の中に自発的、自治的な活動の場を増やすように努めてきたので、みんなで力を合わせようと前向きに参加する児童の態度に成果が見られます。そして、5・6年生はリーダーとして立派に育ってきました。大きな成果です。※今回で「特活事始め(特活解説)」は終了します。

◆ 避難訓練実施※1/23



休憩時、各自の判断で避難…

◆ 児童会代表委員会※ 1/22



5年生リーグの下
お別れ集会企画…

◆ 地区児童会※ 1/9



冬休みの反省や登校班確認等…

学びいっぱい

◆ 職員研修※特別支援教育 1/21



ADHD のような障害も疑似体験…

個々の特徴に合わせた対応法を学びました

◆ 出前授業(5年)※能開大より 1/16



おもしろ実験に興味が湧きました…

理科が好きになるかも…

競技スポーツ等の強化においては、体罰・暴力等による指導の在り方をはき違えた問題がしばしば取り沙汰される。今も柔道界が大騒ぎのようだ。先般、教育界にも体罰問題がクローズアップされたばかりだし、今日も県東部の高校野球部が話題になっていた。学校・家庭を問わず教育として根強く残る体罰容認論をどう乗り越えるかが問題である。

体罰指導は表面上の効果も空しく、むしろ逆効果のことが多い。教師としては、子どもたちに対して心に響く丁寧な指導を心がけたいと思う。しかしながら、指導する側に心の余裕のない時などには、つい手をあげてしまうことがあるのだろう(と思う)。

家庭教育ではどうだろうか?昔ながらの根性論ではないが、ゲンコツの一つや二つ…とつい考えがちにならないだろうか?ただ、言えることは「体罰指導」は大人から子へ連鎖すること、そして、それらは同じく世を騒がせている「いじめ問題」の根っこになっているということである。いじめの根っこを辿ると、我々大人の指導の在り方に因ることが多い。他と比較したり、失敗を責めたり脅したり、おだてたり、褒美でつたり…と、いろいろある。しかし、言うは易く行うは難し…現実である。(土)